

巨大,直下地震・大噴火・特警雨・山崩れ

地球観測連合

予見

実用化試験中！

地象危険情報

DangerNews & JYAN研

地震予見技術は最先端

3日前迄に、次の地震模様が、
観測画像から見える技術です！

誰も知らない**夢の技術**が進行中です！

地震の「予知」どころでは、ありません。

**いつどこ大きさに回数時間間隔等、異常
模様から、地震概要が予め判るのです！**

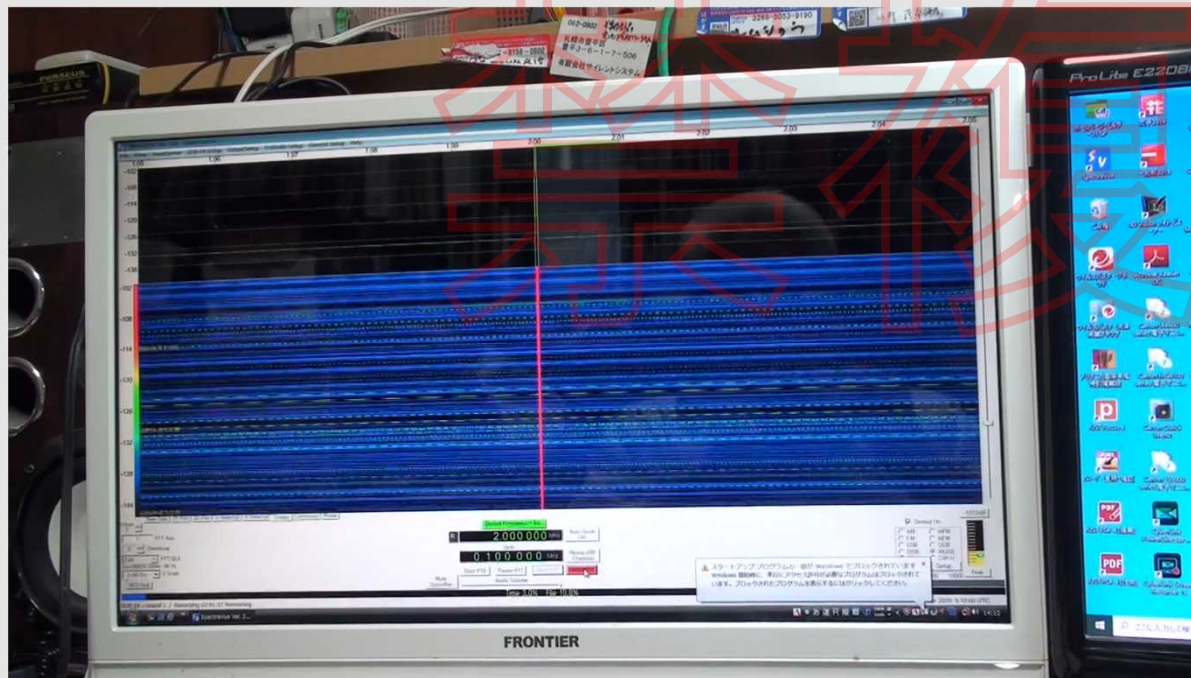
現在<予見技術(観測と解析の技術開発)が進行中です！

何故？ 前以て、

地震の模様を見る事ができるの？

- ①できるのは、当たり前なのです。何故かと言うと、直下型地震では地表で地下の電磁変化を観測できます。
- ②地下深くの地殻が、ズレたり、割れたりすれば必ず、電磁気が発生します。その電磁気が直ちに地上迄届き、地殻の変動模様を観測する事ができます。そして本物の地震が、観測通り、ほぼ1週間後に発生しています。

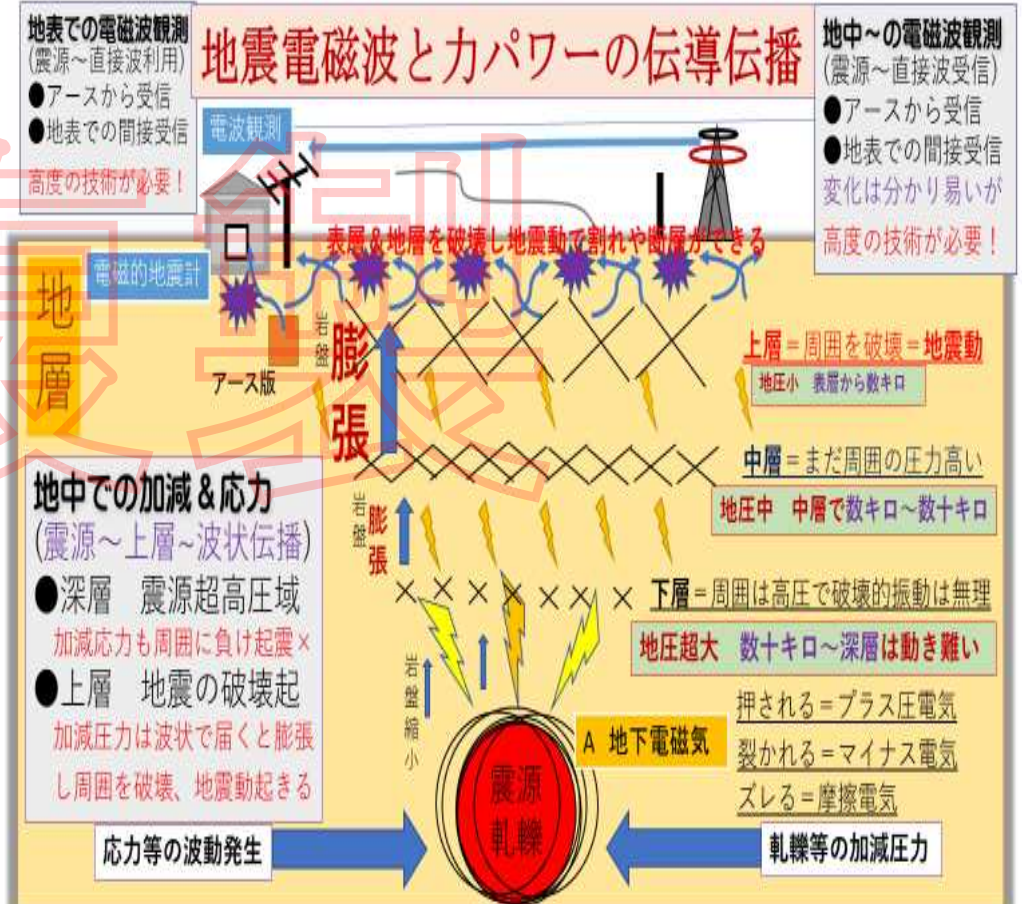
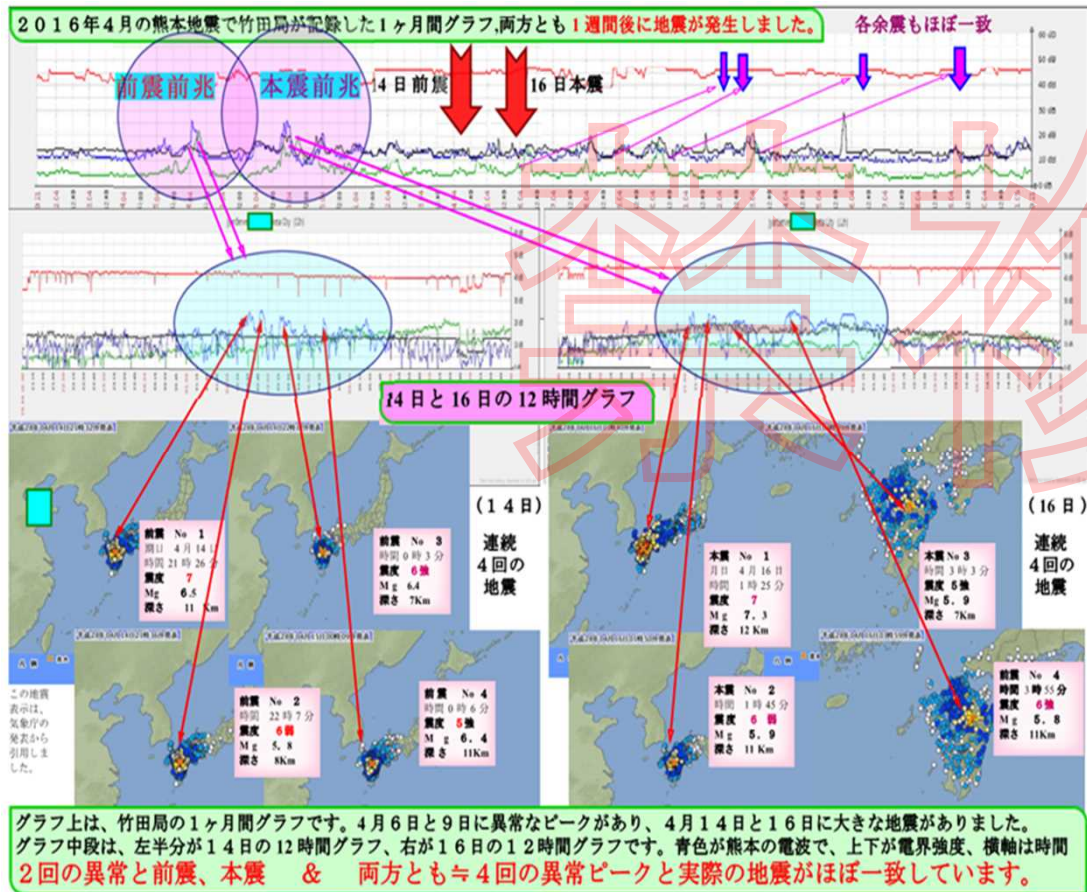
予見できるのは、本当です。
観測の証拠をご覧下さい！



- 左の画像は終わりの数秒が地殻変動を捉えた解析時の画像です。観測網で観測データを集め、分析すれば予知3原則はPerfectです。
- 地殻動のデータ分析結果を地図に映せば、地震の様子が判ります。
- ①予見するには、地震計並みに、電磁(波)気の観測網を設置して生データを集め、解析(分析)します。
- ②解析後には地震の様子を地図画面に解りやすく表示できます。
- ③予知や予見をPerfectにするには、システムの充実が必要です。
- ◎地殻動の解析や、電磁ノイズの分析で地震動のウネリ、大きさ、範囲、周期等予知3原則等が良く判ります。世界初の予見技術です。
- 現在、約50基の電磁波観測網で実証実験中！Vupで実用化OK！

地震が予知できる根拠とは？

下図は1週間前の異常と地震が合致、右下は地下の説明

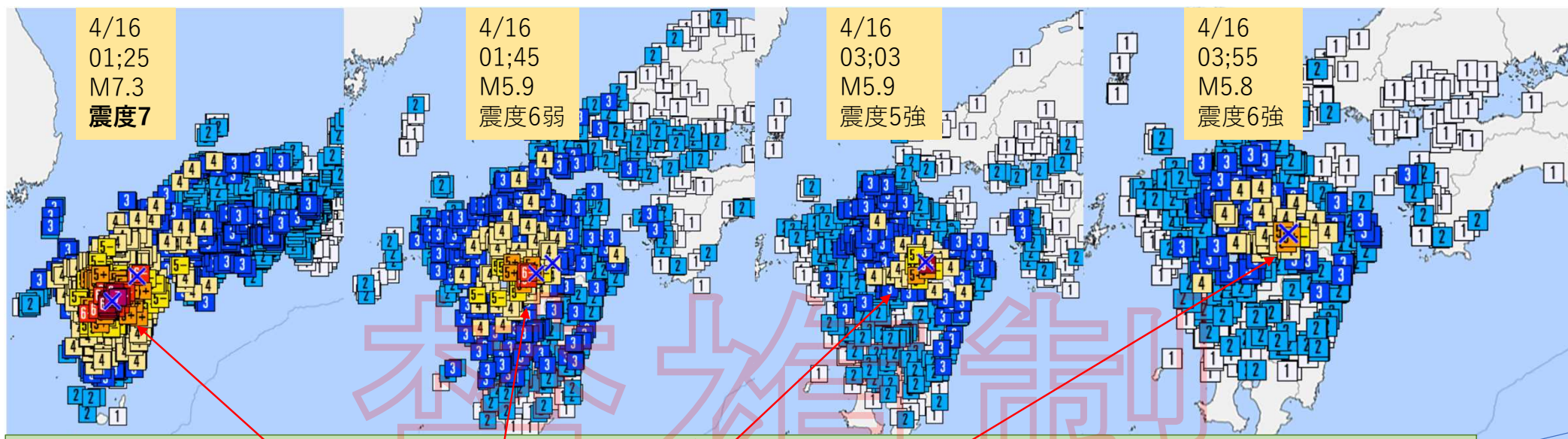


どうして予知できた？

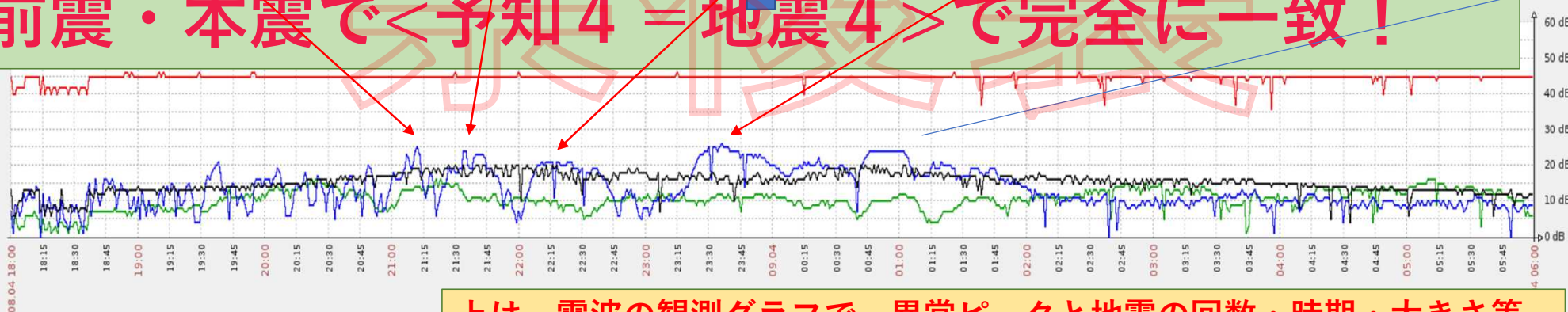
= 地震電磁波観測 25年の積み重ね！

電波観測, 技術開発, データ解析完成!

- ①1995年研究開始、地震観測装置を開発、12年前大分県に観測網を設置
- ②10年前、京大で、地震と全電磁波や短波帯電磁波の異常関連性を発表
- ③FM放送電波に表れる異常と地震予知の関連性を発表(予知学会等で)
- ④潮汐とFM放送電波に表れる地震異常との関連性を発表(予知学会等で)
- ⑤全国各地観測の地震予知Dataと実際の地震との関連性発表(JGU学会)
- ⑥淡路、長野、福島、熊本、大阪等々地震と電磁波の予知状況を発表！
- ⑦地震予知観測の予報実験では、地震の予知正解率を7割+合致達成！
- ◎JYAN研は、現在約50基の電磁波観測網で観測し予知予見を検証中！



前震・本震で<予知4＝地震4>で完全に一致！

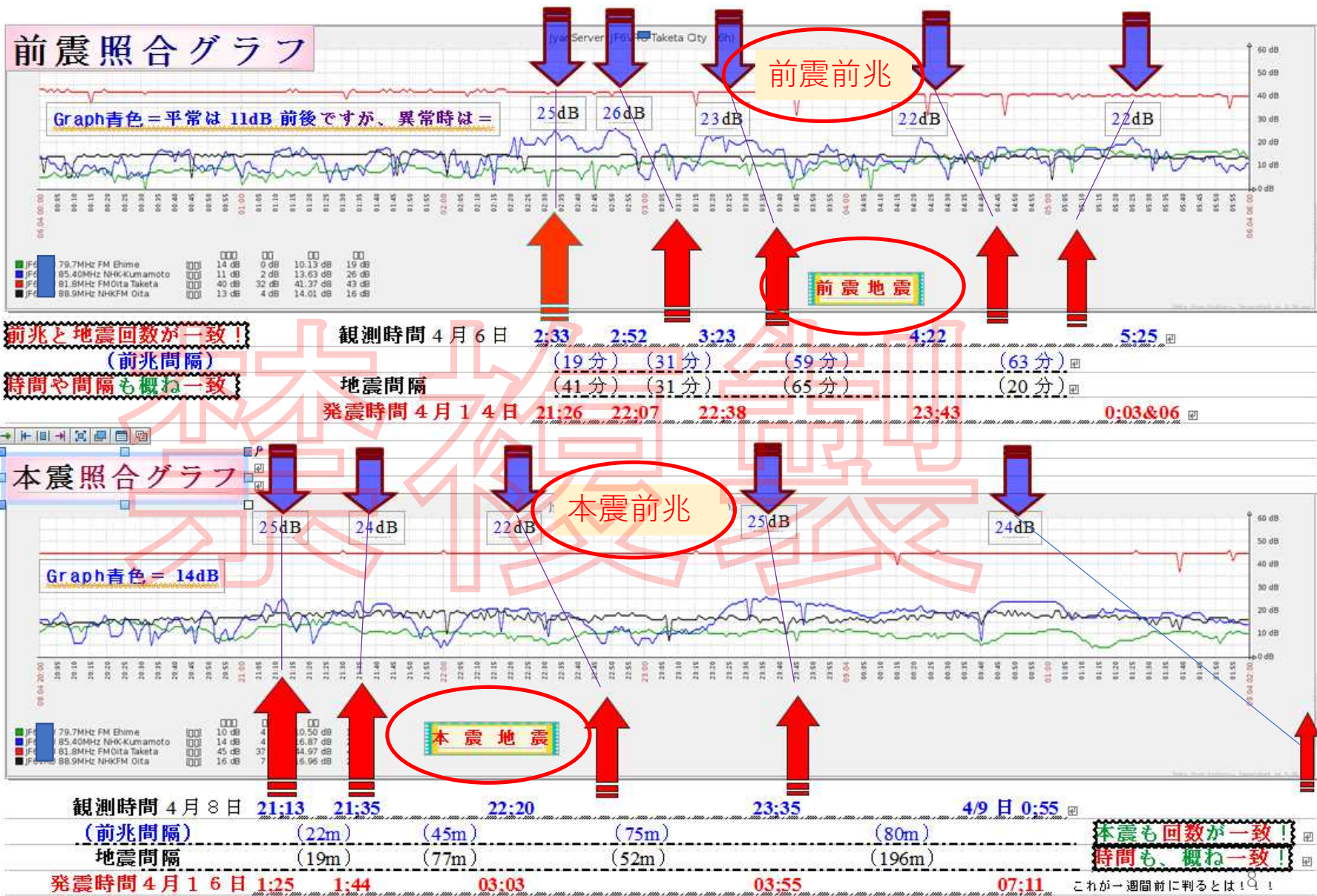


上は、電波の観測グラフで、異常ピークと地震の回数・時期・大きさ等が、ほぼ一致しました。一週間前の観測で一週間後の地震が判ります！

■ JF6 79.7MHz FM Ehime	□□□ 6 dB	□□ 0 dB	□□ 10.37 dB	□□ 16 dB
■ JF6 85.40MHz NHK-Kumamoto	□□□ 9 dB	□□ 0 dB	□□ 13.40 dB	□□ 26 dB
■ JF6 81.8MHz FM Oita Taketa	□□□ 45 dB	□□ 36 dB	□□ 44.78 dB	□□ 46 dB
■ JF6 88.9MHz NHKFM Oita	□□□ 12 dB	□□ 4 dB	□□ 15.21 dB	□□ 20 dB

上の震度図は気象庁発表の地震資料です。

熊本地震の
予知
と実際の
地震
完全
合致
& 次は
何分
後？
まで判
るぞ！



電磁観測で<予知理論を証明>できた背景

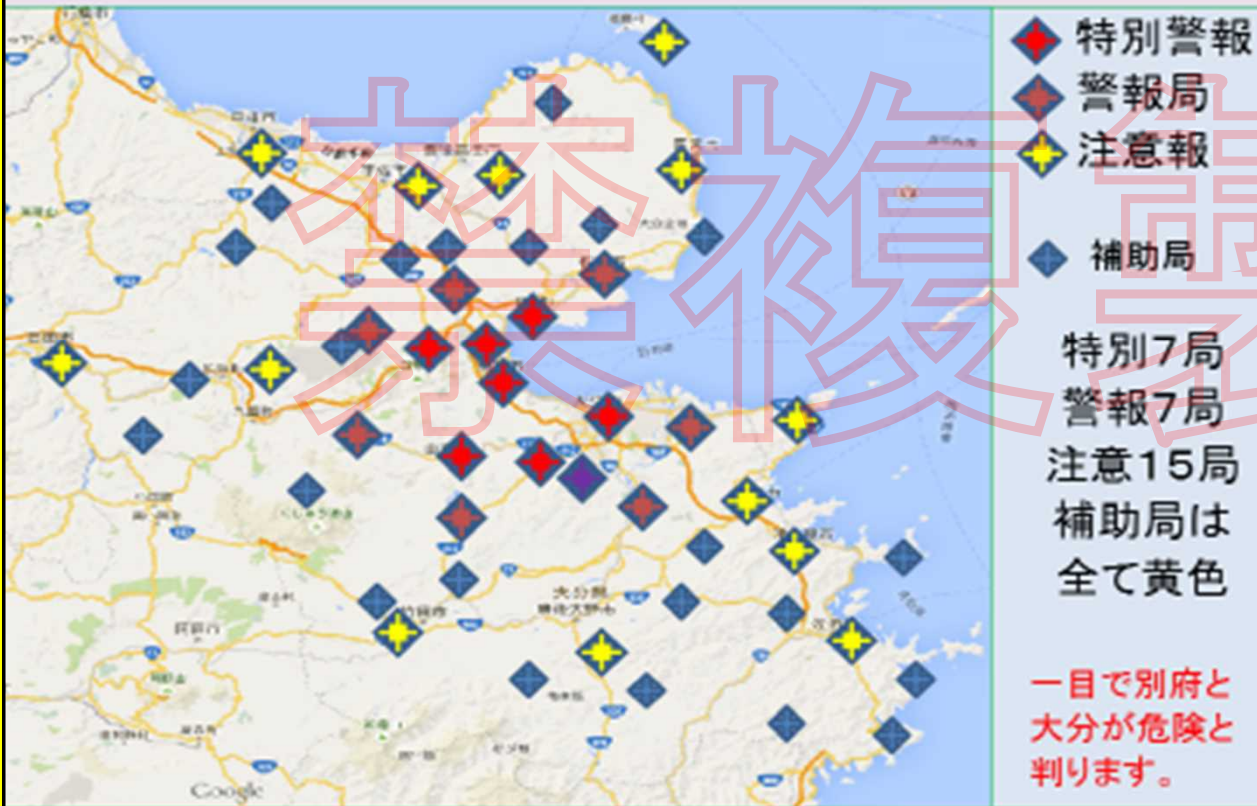
- ① 地震の観測は電磁気観測だけが<予知可能>と判りました。
地震前にノイズ等の電磁的現象があり、電磁(波)気観測なら予知可能
- ② 地殻内部からの電磁気を受信する、新しい特殊技術を開発!
地球表面に届いた電磁変化をアース・地表上下等から新技術で捕捉
- ③ 受信した電磁気やノイズ等を、デジタルデータに変換!
捉えた電磁気信号等を、デジタル画像データに変換する新技術を開発
- ④ データを解析や分析する為、グラフ等に変換して画面表示!
電磁変化のデジタル化から、数値化して計算やグラフ等で解析に利用
- ⑤ 画面データを照合・分析し、正しい予見情報を発信へ!
従来から蓄積した経験則と照合確認し、予測を図面表示して発信する

大分県の観測網予想図(各局の異常色)で震源地や大きさ判明！ 黄色は要注意、赤色集中は直下が震源、異常レベルと範囲で「大きさ」が判明

赤色
は
直下

橙と黄色で線を結ぶと震源が明白だ！

「地震観測互惠ネット」での観測予想図(高崎山付近)
(赤)が特別警報局(橙)が警報局(黄)が注意局



気象庁の地震観測は全国600カ所の観測点からのデータを集めています。

他機関等を含め全国で3,900カ所に地震観測点があります。期待された地震警報は(直下型地震は間に合いません。)

しかし、

当観測網ができれば、
ほぼ1週間前～、左図
＝天気予報のように地震情報をご覧になれます。

全国に広がれば、データの相互補完体制が完成し確率90%以上です。
(各県に統括局を配置)

地震の 電磁予知 理論と メカニ ズム

発表済

全国の観測 (第1期の計画)
DN電磁観測網 600局
[県単位]で情報配信可能

沖縄諸島

地震等危険情報とは
いつ 月日
どこで 県&市
どれくらいの 震度

右図は200局分の表示図
北海道、東北、信越、関東
北陸、東海、中部、近畿、中国
四国、九州、沖縄、島嶼地方
観測の「どこ？」と、範囲は
600局観測 県～地方単位
1200局観測 県地方の単位
1800局以上 市単位で場所
を発表する事が可能です。



予知理論とメカニズムはHP

当予知技術は「**熊本地震で実証**」しました！
ただ、実用化する迄の建設資金はたいへんです。
約30億円あれば75%の初期予知ができます。
後は、改良等で90%以上の予見情報となります。
地震前に、安全に、避難できるでしょう。この地
象観測技術は、地球規模での観測に対応できます。

- 国や地方は、地震学会の「地震予知不能」を聞いて、動けません。
(観測情報は、確実に正しい情報で無いと混乱を起こすので、国有化は無理でしょう。)
- **しかし、電磁気観測なら、確実に「安全社会」を実現できます！**
- **当研の予見技術を民間的に活用し⇒地象の総合観測情報センターや、地象研究所や大学等を作って、安全技術で世界をリードしましょう。**
- **JYAN研究会、國廣秀光、JH6ARA等で検索 <http://ara.jyan.biz/>**

JYAN研 25年経歴

◎ JYAN(地震予知アマチュアネット)研究会の地震電磁波研究と活動記録の経歴紹介

- ・1995年1月17日 阪神淡路大震災発生 地震予知の必要性を痛感して電磁波観測による地震予知の研究を始めた。
この間あらゆる周波数の電波で地震ノイズや地震での変化等を観測し、ハム局の経験などを全て実験して確認した。
- ・2007年 5月 災害情報学会、日本地震学会などに入会、その後、日本地球惑星科学連合学会入会
- ・2009年 5月 ハムの月刊誌「CQ」で4月・5月に地震予知の研究会員を募集、15名で**JYAN研究会発足**
- ・2009年10月 日本地震学会(京都大学)で地震電磁波の観測方法など、新監視方式などを発表紹介
- ・2011年10月 日本地震学会(静岡)で地震に関する電磁気などの発生原因と異常観測理論を発表
- ・2012年 8月 東京ビッグサイトのハムフェアに出展をしました(この年から、毎年展示に参加～連続6回計7回)
- ・2013年 7月7日 JYAN大分ネット第2回総会で研修会 10月2日 産経新聞夕刊「1面トップ」でJYAN研紹介
- ・2014年 3月14日 伊予灘で地震発生全面記録 12月25/26日 日本地震予知学会(電通大)で2項目を発表
- ・2015年 5月25日～26日 JGUの連合学会大会(幕張)でFM電磁波観測による潮汐同期等の2項目を発表
- ・2016年4月14&16日 熊本地震でM7クラスが2回発生する事を観測で予知できたのはJYAN研のみでした！
- ・2016年12月5日 日本地震予知学会のニューズレター第3号に2Pで当JYAN研の研究活動が紹介されました。
- ・2017年3月5日 西日本ハムフェアで熊本の観測状況講演 同年5月26日JGU学会大会で熊本地震を発表
- ・2017年6月8日 産経新聞にJYAN研が大きく紹介されました。月刊誌「CQ」9月号に4PでJYAN研活動が紹介
- ・2017年10月25日 日本地震学会(鹿児島市)で熊本地震での電磁気を観測する地震観測成果を詳しく発表しました。
- ・2017年12月25日 日本地震予知学会で熊本地震での地震観測状況などを講演したいへん好評でした。
- ・2018年9月23日 総務省主催異能(イノ) ベーシオンで東京に招待され、プレゼンテーションにて発表しました。
- ・2019年6月20日 CQ誌7月号の別冊で、電磁波を観測した地震研究による新しい地震対策が掲載されました。
- ・2019年9月18日 日本地震学会(京都大学)にて初の「地震予知の理論とメカニズム」を発表して注目されました。
- ・2019年12月25日 日本地震予知学会(東海大学)にて上記を講演で発表しました。ビデオ記録もご覧下さい。
- ・2020年7月1日 「**地震予見の理論とメカニズム**」と地象予見の為の電磁波観測と解析技術を開発したと発表した。
学会発表及び講演 日本地震学会6回、日本地震予知学会5回、JGpU5回&講演24回等(他に防災講演会有り)
記事=CQ7回 新聞4回 観測網は全国約50局が約200波を観測中！東京のハムフェアには7回出展した。
地震予知安全ネット(大分県観測網、地震前兆ノイズ研究会、JYAN会員ML等々400名超・大分県国東市)
JYAN研究会&地震予測観測網&Danger News 会長 JH6ARA 國 廣 秀 光

○ JYAN研究会(新旧HP)
<http://ara.jyan.biz/>(現HP)
<http://jyan.biz/> 元HP(旧)

◎ 地震予知安全Net
<http://jk.jyan.biz/>

○ 地震電磁波研究
<http://nx.jyan.biz/>

△ 地震予知研究所(試験)
(予知確率の検証HP 完了)
<http://www.oct-net.ne.jp/jh6ara/>

JYAN研の観測会員入会希望者を受け付けます。(現HP)のフォームメールでどうぞ
○観測網等の現状をどうぞ
(現在3種50局)あり

<http://ai.jyan.biz/> 他有
=各県数名迄で、適任者を選考後に観測登録します。

◎ JYAN研会員の希望者は〒と氏名の送信でOK
jyanken@oct-net.ne.jp